

謝辞と参考(引用)文献

プレゼンの最後は謝辞と参考文献で締めくくります。

【謝辞】 お世話になった人にお礼をするのが謝辞です。

① 謝辞をする意味

謝辞には、大きく分けて「感謝の気持ちを伝える」「聴衆に良い印象を残す」の2つの意味があります。

はじめの例は当たり前です。2番目の例は意外かもしれませんが、聴衆に良い印象を残すことで、発表の内容もより記憶に残ります。

② 謝辞をすべき人

君たちの課題研究に何らかの形で関わり、協力してくれた全ての人です。

- ・見学に行ったときにお世話してくれた人
- ・メールで質問して答えてくれた人
- ・試料をくれた人
- ・アドバイスしてくれた人
- ・指導してくれた先生 など

③ 謝辞の文章の例

簡単で良いので、「どうして感謝しているのか」という理由を書き添えるようにします。下記の例では下線を引いています。

例1：シンプルな謝辞

「本研究を進めるにあたり、ご指導いただきました〇〇先生、試料を提供していただいた〇〇研究所の〇〇先生、そしてアンケートにご協力くださった皆様に深く感謝いたします。」

例2：少し詳しく感謝を述べる謝辞

「この研究は、〇〇先生からのご指導、そしてアンケートにご協力くださった皆様、さらにはデータ整理を手伝ってくれた友人たちの協力なしには完成しませんでした。皆様に心より感謝申し上げます。」

例3：具体的なエピソードを交える謝辞

「本研究は、特に〇〇大学の〇〇先生には、突然のメールでの質問にもかかわらず、〇〇理論について丁寧な解答と今後の研究方針への助言をいただいたことが、大きな転機となりました。この場を借りて深く感謝いたします。」

【参考文献(引用文献)】

参考文献と引用文献は厳密には違うのですが、ここでは同じものとして扱います。また、文系と理系、専門分野、学会によって参考文献(引用文献)の書き方が違います。啓成高校では、物理系の学会の書き方を参考にしています。

先行研究や参考にした文献を示さないことは、研究倫理に反します。つまり絶対にやってはいけないことです。慎重に対応してください。

では具体例です。「論文作成のコツ」というタイトルだと仮定します。

- ・本の場合 (1) 中道洋友(2024),「論文作成のコツ」,啓成出版
- ・論文の場合 (2) 中道洋友 他(2024),「論文作成のコツと実際」,啓成高校研究紀要, p146-160
- ・ネットの場合 (3) 啓成高校 HP,「論文作成のコツ」, URL, 最終閲覧日 2024年2月9日

※ URL が長いときは中道に相談してください

※本文中の参考文献の紹介の仕方

論文を書くときは、タイトル・要旨・序論・方法・結果・考察・結論という流れにするのが原則⁽¹⁾である。そのためにはフローチャートやKJ法⁽²⁾を利用し、考えをまとめておく必要がある。

引用した文章等の直後に上付きの(1), (2)のように示すのが一般的です。(1)や(2)の内容は発表の最後のスライドや論文の最後に示します。

【付録(Appendix)】

本文を補足するものです。本文中に含めると流れを妨げたり、複雑になりすぎたりする詳細なデータや資料などを掲載します。君たちの場合は、「実験で使用した器具や材料の詳細(メーカーや型番)」を書くことが多いでしょう。

参考文献のスライドに「Appendix」という項目を付け加え下記のように書きます。

付録(A) 周波数の測定ではスマホのアプリ「Sound Analyzer Basic」を用いた。

また、本文中では、次の囲みのように、上付きで(A)と記載します。

3-2 実験方法

スマホのアプリを用いて各共鳴管の長さを変えながら周波数を測定した^(A)。